

令和元年度第2回大阪府医療対策協議会議事概要

日時：令和元年12月6日（金曜日）13時00分から15時00分

場所：大阪赤十字会館 4階 401会議室

【議事概要】

◆ 議題

- (1) 「医師確保計画の検討状況について」
- (2) 初期臨床研修医募集定員の配分方法（ベース値）について
- (3) 専門医制度について（R3開始研修シーリングについて）

- 医師確保計画の必要となる医師数の基本的方向性の設定のうち、周産期・小児科・救急科の3科について、医師の勤務実態をもとに、将来の医療需要を踏まえた推計の考え方を示すとともに周産期・小児科については、医療提供体制のあり方とあわせた検討案について議論した。
- 初期臨床研修医の募集定員の配分方法案について、最終配分の調整枠についての課題と対応や国に対する要望について議論した。
- 令和3年度開始の専門研修に係るシーリングについて、大阪府の採用数を確保するための国への要望提案について議論した。

（議題1についての意見）

- ・周産期の集約化シミュレーションにおいて、大学病院の有無並びに地域周産期の役割等もあるため、地域ごとの実情を踏まえ、考えていくべき。
- ・大学病院から応援医師を派遣されなくなる医療機関及びその地域には、医師派遣が滞っても地域医療がマイナスとならないように、その地域に対して、拠点病院の配置も含め、医療体制の低下を招かない予防策を検討するべき。
- ・医師確保計画・地域医療構想・医師の働き方改革を三位一体で議論すべきというからには、全ての整合性をしっかりと取るようにするべき。

（議題2についての意見）

- ・評価項目改正後のため、激変緩和措置の制度部分については残す方向で検討するべき。

（議題3についての意見）

- ・大阪の専門研修プログラム採用数を確保するための方法を更に考えるべき。
- ・R3年度に向けて、研修の質を担保した専門医制度となるように、国に要望するべき。

◆ 検討結果

- ・集約化シミュレーションについては、圏域ごとでも変わってくるため、議論を重ね慎重に進めていく。
- ・地域の医療提供体制もしっかりと考え、拠点病院の配置についても、十分に留意して検討していく。
- ・医師確保計画・地域医療構想・医師の働き方改革については、三位一体で議論を進める。
- ・激変緩和措置の制度及び府独自の評価項目の見直しを、次回の会議に向けて検討する。
- ・各大学を含めた基幹施設の先生方とも、情報を共有し、大阪の専門研修プログラムの採用数の確保を協力して進めていく。